

§ 7.4 部分積分法

関数の積の微分公式 (定理 3.3.1) より次の定理が導かれる。

定理 (不定積分の部分積分法) 関数 f の導関数 f' 及び関数 g が連続である区間において、

$$G(x) = \int g(x) dx \text{ とおくと } \int f(x)g(x) dx = f(x)G(x) - \int f'(x)G(x) dx .$$

ここで不定積分 $\int g(x) dx$ の計算では積分定数を略してよい。

証明 関数 f の導関数 f' 及び関数 g が連続である区間で考える。 g の不定積分を G とおく: $G(x) = \int g(x) dx$. 定理 6.4.3 より $\frac{d}{dx}G(x) = \frac{d}{dx}\{\int g(x) dx\} = g(x)$.

関数の積の微分公式 (定理 3.3.1) より、

$$\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} = \frac{d}{dx}f(x) \cdot G(x) + f(x) \frac{d}{dx}G(x) = f'(x)G(x) + f(x)g(x) ,$$

$$f(x)g(x) = \frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} - f'(x)G(x) ,$$

$$\int f(x)g(x) dx = \int \left[\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} - f'(x)G(x) \right] dx$$

$$= \int \left[\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} \right] dx - \int f'(x)G(x) dx ,$$

定理 6.4.4 より $\int \left[\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} \right] dx = f(x)G(x) + C$ (C は積分定数) なので、

$$\int f(x)g(x) dx = f(x)G(x) - \int f'(x)G(x) dx .$$

ここで積分定数は略した。

(証明終り)

この公式を用いる積分計算法を部分積分法という。この公式の成り立ちを覚えること: 関数 f の導関数 f' 及び関数 g が連続であるとき、 $g(x)$ の不定積分 $\int g(x) dx = G(x)$ に対して、

$$\int \boxed{f(x)} \boxed{g(x)} dx = \boxed{f(x)} \boxed{G(x)} - \int \boxed{f'(x)} \boxed{G(x)} dx .$$

そのまま 微分する
積分する そのまま

例題 不定積分 $\int x \cos x dx$ を計算する。更にその結果を用いて不定積分 $\int x^2 \sin x dx$ を計算する。

【解説】 積分定数を略すと $\int \cos x dx = \sin x$, また $\frac{d}{dx}x = 1$. 積分定数を C_1 とおく。部分積分法により、

$$\int x \cos x dx = x \sin x - \int 1 \sin x dx = x \sin x - \int \sin x dx$$

$$= x \sin x + \cos x + C_1 .$$

更にこの結果を用いて $\int x^2 \sin x dx$ を計算する。積分定数を略すと $\int \sin x dx = -\cos x$, また $\frac{d}{dx}x^2 = 2x$. 積分定数を C_2 とおく。部分積分法により、

$$\int x^2 \sin x dx = x^2(-\cos x) - \int 2x(-\cos x) dx = -x^2 \cos x + 2 \int x \cos x dx$$

$$= -x^2 \cos x + 2(x \sin x + \cos x) + C_2$$

$$= 2x \sin x + (2 - x^2) \cos x + C_2 .$$

終

問題 7.4.1 不定積分 $\int x \sin x dx$ を計算せよ。更にその結果を用いて不定積分 $\int x^2 \cos x dx$ を計算せよ。

関数 f は微分可能で更に導関数 f' は連続であるとする。不定積分 $\int f(x) dx$ を計算するために、 $f(x) = f(x) \cdot 1$ と考えて部分積分法の公式を適用する: 積分定数を略すと $\int 1 dx = x$ なので、

$$\int f(x) dx = \int f(x) 1 dx = f(x)x - \int f'(x)x dx = xf(x) - \int xf'(x) dx .$$

この部分積分法によって対数関数 $\ln x$ の積分公式が導く。積分定数を略すと $\int 1 dx = x$, また $\frac{d}{dx} \ln x = \frac{1}{x}$. 積分定数を C とおく。

$$\int \ln x dx = \int (\ln x) 1 dx = (\ln x)x - \int \frac{1}{x} x dx = x \ln x - \int 1 dx$$

$$= x \ln x - x + C .$$

(積分公式)

$$\int \ln x dx = x \ln x - x + C \quad (C \text{ は積分定数}) .$$

例題 不定積分 $\int \ln(3y+2) dy$ を計算する。

【解説】 変数 z を $z = 3y+2$ とおく。 $\frac{dz}{dy} = 3$ なので $dy = \frac{1}{3} dz$. 積分定数を C_0, C とおく。部分積分法により、

$$\int \ln(3y+2) dy = \int (\ln z) \frac{1}{3} dz = \frac{1}{3}(z \ln z - z) + C_0$$

$$= \frac{1}{3}\{(3y+2) \ln(3y+2) - 3y - 2\} + C_0$$

$$= \left(y + \frac{2}{3}\right) \ln(3y+2) - y - \frac{2}{3} + C_0$$

$$= \left(y + \frac{2}{3}\right) \ln(3y+2) - y + C .$$

ここで定数項 $-\frac{2}{3} + C_0$ を一つの積分定数 C にまとめた。

終

問題 7.4.2 不定積分 $\int \ln(4u+7) du$ を計算せよ。

例題 不定積分 $\int y \ln y dy$ を計算する。

【解説】 積分定数を略すと $\int y dy = \frac{1}{2}y^2$, また $\frac{d}{dy} \ln y = \frac{1}{y}$. 積分定数を C とおく。部分積分法により、

$$\int y \ln y dy = \frac{1}{2}y^2 \ln y - \int \frac{1}{2}y^2 \frac{1}{y} dy = \frac{y^2}{2} \ln y - \frac{1}{2} \int y dy = \frac{y^2}{2} \ln y - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}y^2 + C$$

$$= y^2 \left(\frac{\ln y}{2} - \frac{1}{4} \right) + C .$$

終

問題 7.4.3 不定積分 $\int x^3 \ln x dx$ を計算せよ。

例題 不定積分 $\int x \sin 3x dx$ を計算する。

【解説】 変数 y を $y = 3x$ とおく。 $\frac{dy}{dx} = 3$ なので $dx = \frac{1}{3} dy$. 積分定数を略すと、

$$\int x \sin 3x dx = \int \sin y \frac{1}{3} dy = \frac{1}{3}(-\cos y) = -\frac{1}{3} \cos 3x ,$$

$$\int \cos 3x dx = \int \cos y \frac{1}{3} dy = \frac{1}{3} \sin y = \frac{1}{3} \sin 3x .$$

また $\frac{d}{dx}x = 1$. 積分定数を C とおく。部分積分法により、

$$\int x \sin 3x dx = -\frac{1}{3}x \cos 3x - \left(-\frac{1}{3} \int 1 \cdot \cos 3x dx \right)$$

$$= -\frac{x}{3} \cos 3x + \frac{1}{3} \int \cos 3x dx = -\frac{x}{3} \cos 3x + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} \sin 3x + C$$

$$= \frac{1}{9} \sin 3x - \frac{x}{3} \cos 3x + C .$$

終

問題 7.4.4 不定積分 $\int x \cos 5x dx$ を計算せよ。

問題 7.4.5 不定積分 $\int x e^{\frac{x}{3}} dx$ を計算せよ。

部分積分法と微分積分の基本定理とを用いて定積分を計算する。

例題 定積分 $\int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos x dx$ を計算する。

【解説】 まず部分積分法によって不定積分 $\int x \cos x dx$ を計算する。積分定数を C とおく。

$$\int x \cos x dx = x \sin x - \int \sin x dx = x \sin x - (-\cos x) + C$$

$$= x \sin x + \cos x + C .$$

従って、微分積分の基本定理より、

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos x dx = [x \sin x + \cos x]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{2} \sin \frac{\pi}{2} + \cos \frac{\pi}{2} - (0 \sin 0 + \cos 0)$$

$$= \frac{\pi}{2} - 1 .$$

終

問題 7.4.6 定積分 $\int_{\frac{\pi}{3}}^{\frac{\pi}{2}} t \sin t dt$ を計算せよ。

————— 定積分の部分積分法

定理 (定積分の部分積分法) 実数 a, b が属するある区間において、関数 f の導関数 f' 及び関数 g は連続であるとする。

$$G(x) = \int g(x) dx \text{ とおくと } \int_a^b f(x)g(x) dx = [f(x)G(x)]_a^b - \int_a^b f'(x)G(x) dx .$$

証明 関数 G を $G(x) = \int g(x) dx$ とおく。定理 6.4.3 より $\frac{d}{dx}G(x) = \frac{d}{dx}\{\int g(x) dx\} = g(x)$. 関数の積の微分公式 (定理 3.3.1) より、

$$\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} = \frac{d}{dx}f(x) \cdot G(x) + f(x) \frac{d}{dx}G(x) = f'(x)G(x) + f(x)g(x) .$$

関数 $f'(x)G(x) + f(x)g(x)$ は連続なので、微分積分の基本定理より、

$$\int_a^b \{f'(x)G(x) + f(x)g(x)\} dx = [f(x)G(x)]_a^b .$$

この等式の左辺は $\int_a^b \{f'(x)G(x) + f(x)g(x)\} dx = \int_a^b f'(x)G(x) dx + \int_a^b f(x)g(x) dx$ なので、

$$\int_a^b f'(x)G(x) dx + \int_a^b f(x)g(x) dx = [f(x)G(x)]_a^b ,$$

故に $\int_a^b f(x)g(x) dx = [f(x)G(x)]_a^b - \int_a^b f'(x)G(x) dx$.

(証明終り)